

# 季刊 ジャネット Ja-Net

No.22

2002年7月25日発行

View from the Other Side .....	3
あちこち日本語ご紹介[北海道 札幌市] .....	4
あちこち日本語ご紹介[タイ王国 コンケン] .....	5
教材紹介『いっしょに にほんご』 .....	6
『完全マスター語彙 日本語能力試験1・2級レベル』 .....	7
『完全マスター漢字 日本語能力試験2級レベル』 .....	7
なんでも情報BOX .....	8

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーイーネットワーク

## 巻頭寄稿

# 多言語スピーチ・コミュニティ<香港>における日本語インターアクション

香港理工大学 副教授  
香港日本語教育研究会 会長  
宮副ウォン 裕子



## 1. 香港のこぼれと社会

香港の街を歩くと、中国語や英語の文字に混じって、日本語とおぼしき看板や、インド文字、ハングル、タイ文字などの看板や店名を見かける。観光客の多いレストランやホテルには多言語のメニューや案内があり、免税品店に行けば多言語を操る店員もいる。彼らの話す日本語が日本語のポライトネス・ルールに著しく違反していたとしても、一過性のものとして無視（あるいは、我慢）さえすれば、日本人観光客にとって、香港での食事や買い物はしごく便利に違いない。

香港の人口は670万、その89%が広東語を、8%がその他の中国諸方言<sup>2</sup>を第一言語として日常使用している。阿片戦争から97年の中国返還まで150年余、イギリス統治下の香港では、英語は中国語とともに公用語のひとつであり、教育媒介語のひとつでもあった。返還後5年を経た今（02年）も、基本法により政府広報などすべて中英二言語表記が義務づけられている。英語を第一言語とするのは全人口のわずか2.2%に過ぎないが、第二言語/外国語としての英語能力保持者は29.4%に達し（Bacon-Shone and Bolton 1998）、英語の普及度の高さを示している。しかし、だからといって、香港市民全員が中英バイリンガルだというわけではない。なぜなら、標準中国語さえ読めれば、英語ができなくても、日常生活には全く支障がないからだ。逆に、中国語はできないが英語ができるので、快適に生活できるという住民も少なくない。

香港最大の外国人コミュニティは、期待に反して英語圏諸国ではなく、その多くが住みこみの手伝いとして働くフィリピン人<sup>3</sup>である。日曜日に広場や公園に集う彼らが話すことばはタガログ語であ

る。日本語は、香港の全人口の0.2%が第一言語として、0.8%が外国語として使用する能力がある<sup>4</sup>（Bacon-Shone and Bolton 1998）。そのほかに、インド、タイ、インドネシアなどの言語コミュニティがあり、02年現在の香港は多言語状況を呈している。

## 2. 多言語スピーチ・コミュニティ<香港>における日本語

6万人前後と推定される香港人日本語話者(以下、HJ)の大部分は、学習をすでに終えた(あるいは、やめた)香港人であろう。一方、学習を継続中の日本語学習者は1万6千人で世界11位、海外日本語学習者の約1パーセントを占めている(国際交流基金1998)。学習者のほぼ全員が成人で、うち9割が社会人、1割が大学で主専攻、副専攻、選択科目として日本語を勉強している(宮副ウォン1997)。中等教育では英語以外の諸外国語を正規教科として教えていないので年少学習者はごくわずかである<sup>5</sup>。日本語能力試験受験者数は97年から01年まで、前年比9-22%増で(香港日本語教育研究会HP)、毎年増加している。

つぎに、HJの動機や目的を見てみよう。これまでの調査でHJの多くが、「日本のことを理解したい」などの<統合的動機>と、「就職に有利だ」などの<道具的動機>を、全く矛盾なく併せ持ちながら勉強を続け、日本語母語話者(以下、JJ)とのインターアクションに参加していることが報告されている(宮副ウォン1997)。最近の特徴的傾向として、日本の大衆文化の浸透やインターネット多言語サイトの普及などによって、伝統的な教室外<sup>6</sup>で自習者として学ぶ者(特に、年少学習者)の増加があげられる。

<sup>1</sup>日本語の看板や店名などには、日本語の文法規範から逸脱したものも多い。誤用というより、多言語・多文化接触から、独特のコミュニケーション効果を醸し出すとする試みの産物であると、筆者は理解している。

<sup>2</sup>広東語以外に、普通話(標準中国語、日本では「北京語」と呼ばれている)、上海話、潮州話、客家話などが、中国語の地域方言として香港で話されている。

<sup>3</sup>フィリピン人コミュニティは16万人と報告されている(南華早報、02年2月11日)。

<sup>4</sup>日本人コミュニティは1万6千人と報告されており(南華早報、02年2月11日)、第一言語(母語)話者として日本語を使用する人数とほぼ一致すると考えられる。

<sup>5</sup>少数の国際学校中等部では、フランス語、ドイツ語、日本語などの外国語が正規科目として教えられている。

<sup>6</sup>伝統的な教室以外の場所で、監督者(教授者)なしの日本語学習についてはニューストブニー(1995)に詳しい。

### 3. 香港人上級日本語話者（上級HJ）が求める日本語 インターアクション能力の「専門性」

では、香港人日本語話者（HJ）は、どのような場面で日本語母語話者（JJ）とインターアクションをしているのだろうか。大卒HJの多くが、上級HJとして、かつ、多言語話者<sup>7</sup>として、ビジネスや社交場面でJJとインターアクションしていることがこれまでの調査から明らかである（宮副ウォン1997）が、彼らの保持する上級日本語インターアクション能力の「専門性」は正当な評価を受けているのだろうか。

上級HJを対象とした最近の大規模調査（宮副ウォン2002）の結果を簡単にまとめてみよう。上級HJの大多数が、自分の日本語インターアクション能力に問題があることを自覚している。彼らの体験したインターアクション上の問題の多くは、文法行動のみでなく、文法外コミュニケーション能力、社会文化能力<sup>8</sup>、社会心理面<sup>9</sup>などに起因していることがわかったが、約半数のHJが、自己の文法（言語）能力の不備を改善すれば問題解決ができるのではないかと考えている。これまで苦勞して時間とお金（学費）を投資して上級レベルになったのに、上級レベルの日本語インターアクション能力の「専門性」が、公的に認知されていないという不満も多い。具体例で示すと、香港の路上で「にせものRolex、買う、いいよ、日本、高いよ、香港、安いよ」のような「いかがわしい日本語」で日本人観光客に迫るサバイバル・レベルの初級HJと、上級HJのもつ上級日本語インターアクション能力の「専門性」の境界を明確化することが急務であることが明らかになった。

### 4. 「大学院レベル専門日本研究課程」の需要と開発

上述の調査から、上級HJの多くが日本語インターアクション能力の向上を強く願い、大学院レベルの専門日本研究課程の開設を望んでいることがわかった。HJの期待は、日本人とのインターアクションを理論的に理解し、さまざまな問題を把握・解決し、ビジネスや社交場で、効果的に円滑な日本語インターアクションが実践できるようになりたいということであった。調査結果に基づき、香港理工大学では「大学院レベル専門日本研究課程<sup>10</sup>」を開発し、01年秋に開講した。初年度には応募者80名が殺到し、厳しい選考を経て定員25名に絞り込んだ。

社会人大学院のこのコースの目的は、「総合的な日本語インターアクション能力」の養成である。院生は全員が日本語を使った実務経験が3年から15年の上級日本語話者で、多言語環境における諸分野でさらに高い専門性を身につけるべく、調査、研究、討論に活発に参加する。科目は下記の通りで、必修科目4科目、選択科目2科目（6科目から選択）、全6科目（1科目3単位）を履修（計18単位）することになっている。

#### 必修科目

- 1 現代日本の社会と文化を探る
- 2 多言語職場の日本人とのコミュニケーション
- 3 日本語のディスコースとプラグマティクス
- 4 日本語の書き言葉の理解と分析

#### 選択科目（6科目の中から2科目選択）

- 1 日本語教育 I
- 2 日本語教育 II
- 3 多言語職場の翻訳 I
- 4 多言語職場の翻訳 II
- 5 日本のビジネスと経営
- 6 日本語のビジネス文書を書く

上級HJのニーズ調査では、「ビジネス日本語」、「日本語教育」、「多言語翻訳・通訳」の三ストリームの希望者が多かった。学習者の目的に応じて、同一ストリーム内の2科目を選ぶこともできるし、異なるストリームにまたがって2科目選ぶこともできる。

在校生のこのコースに対する満足度は高く、現行の修士前期（18単位）に修士後期（15単位）を加えた修士課程（33単位）への昇格を望む声も高い。これは、私たち、香港理工大学日本語プログラムが取り組むべき、今後の緊急課題のひとつである。

#### 【参考文献】

- Bacon-Shone, J., and Bolton, K. 1998. Charting Multilingualism: Language Census and Language Survey in Hong Kong. In Pennington, M. (ed.), *Language in Hong Kong at Century's End*, Hong Kong: Hong Kong University Press, 43-90.
- Brumfit, Christopher. 2001. *Individual Freedom in Language Teaching: Helping Learners to Develop a Dialect of their Own*. Oxford; Oxford University Press.
- Davis, Alan. 1991. *The Native-Speaker in Applied Linguistics*. Edinburgh; Edinburgh University Press.
- 香港日本語教育研究会ホームページ < www.japanese-edu.org.hk >  
香港理工大学「大学院レベル専門日本研究課程」ホームページ  
< http://engl.polyu.edu.hk >
- Loveday, Leo. 1982. *The Sociolinguistics of Learning and Using a Non-native Language*. Oxford; Pergamon Press.
- 宮副ウォン 裕子 1997. 「香港理工大学における<ビジネスのための日本語>を中心とした連携」『日本語学』Vol.16 (5月臨時増刊号), 211-222
- 宮副ウォン 裕子 2002. (審査中) 「海外多言語コミュニティーで求められる日本語インターアクション能力: <大学院レベル専門日本研究課程> 開発のための調査から」
- ネウストブニー, J. V. 1995. 『新しい日本語教育のために』大修館
- ネウストブニー, J. V. 2002. 「インターアクションと日本語教育 - 何が求められているか」『日本語教育』112号、1-14

宮副ウォン 裕子 (Miyazoe-Wong, Yuko)

香港理工大学副教授、大学院専門日本研究課程主任

香港日本語教育研究会 会長

佐賀県生まれ、東京女子大学、東イリノイ大学大学院卒業

専門分野: 社会言語学、日本語教育

#### 【主な論文】

The impact of a study/work programme in Japan on interactive competence in contact situations 『世界の日本語教育』6号、「香港理工大学における<ビジネスのための日本語>を中心とした連携」『日本語学』Vol.16

<sup>7</sup>HJが香港で就職する場合、中国語、英語、に加え、日本語が中上級レベル（日本語能力試験一級、同二級合格者）であれば就職に有利である。しかし、日本語上級話者でも英語ができない場合は、専門的な仕事に就く機会は著しく減少する（宮副ウォン 1997）。

<sup>8</sup>非母語話者のインターアクションについては、ネウストブニー（2002）に詳しい。

<sup>9</sup>HJは、広東語（第一言語、母語）や英語（第二言語）を使用する場合と比べ、日本語（第三言語）を使用する時にアイデンティティー（文化的、社会的、心理的）の葛

藤を報告している。外国語使用のアイデンティティーについてはLoveday（1982）、Davis（1991）、Brumfit（2001）を参照のこと。

<sup>10</sup>当コースの英語名は "Postgraduate Diploma in Japanese Studies for the Professions"、中国語名は「專業日語深造文憑」で、修士課程前期に相当する。コースの詳細については、http://engl.polyu.edu.hkを参照のこと。



このコラムでは 学習者の視点での話題をお届けします

## VIEW FROM THE OTHER SIDE

### 日本におけるロシアのイメージについて

オフシャンニコフ・ニコライ



#### ・ 2回目の来日

私は1987年に、当時ソ連の雑誌社に勤めていた父に連れられて、家族と共に初めて来日しました。こうして、私は6歳の時から、5年間ぐらい日本に住むチャンスを得ました。残念ながら、当時の日ソ関係はあまりよくなかったので、私は日本の学校へ行くことが出来なくて、ソ連大使館にある学校へ通っていました。ですからその当時は日本語を全然習っていませんでした。しかし、その代わりに父と一緒にたくさん旅行して、自然美に恵まれた日本、その文化と人々が大好きになりました。

帰国した時に「大きくなったら、必ず日本語を勉強しよう」と思って、5年前にモスクワ大学の日本史と日本文化の学科に入学しました。日本語が私が思ったより難しい言語だということがすぐ分かって、最初の一年間は本当に大変でした。正直に言えば、日本語を止め、もっと簡単な東洋語をとることも考えていました。結局日本語を止めなかった原因の一つは、もう一回日本へ行きたかったということです。その後、やっと必要な試験に合格して、日本語の研究生として日本へ行けるようになりました。今回の留学は私の実現した夢だといってもいいでしょう。しかし、待望の日本滞在の喜びに水を差している、私を感じている問題について、ここで書きたいと思います。

#### ・ 「相互理解」はずっと先のものである

この十年間、日口関係は大変活発に発展しています。両国で、首脳会談が定期的に行われるようになり、様々な分野で国家間ならびに地域間の関係が進んでいます。ロシアと日本の政治家や社会活動家がたえず善隣関係の設置と平和条約の締結の必要性について話たり、相互の理解と信頼を深めるため努力しています。これは言うまでもなく喜ばしい動きです。しかし、一方で一般市民のレベルでは、まだ、たくさんの不信と無理解が残っているように感じられます。

例えば、日本に来る前に、私は初めてロシアを訪れる日本人と会う機会があり、「ロシアとモスクワの印象は？」という質問をしたところ、驚いたことに、一番よく聞かれた答は「渋滞が大変」、「寒さがひどい」でした。別の時には、「僕は初めてモスクワに来た時はロシア人は皆、お酒を飲んで、コサックダンスをする人々だと思っていたんだ」と言われたこともあります。また同様に、今回の滞日時に、日本の全国を旅行した時には、ロシアに対する間違っただステレオタイプを日本人が持っているのではないかと感じることもありました。



#### ・ 否定的なロシアのイメージがあるのはなぜか

そういうわけで、どうも一般の日本人はロシアとロシア人に対していろいろな偏見を持っているだと感じるようになりました。これはどうしてでしょうか。日本の新聞を開いたら、ロシアのニュースはほぼすべてが悪いニュースだということに気がつきました。チェチェン紛争やクルスク潜水艦や汚職についての記事しかロシアの記事は大きく取り上げられていません。もちろん、今のロシアは無数の問題があります。しかし、ロシアでは本当にいいことが全然起こらないのでしょうか。そうではありません。ですが、このような一面的な報道が多くの偏見を生んでいると思います。明治以後は、ロシアは日本に対する最大の軍事的脅威でした。今でも一般の市民の中にはこういう敵対的態度が潜在的に残っているようにも感じてしまいます。

#### ・ この問題の解決

「この状態を変えるためにはどうしたらいいでしょうか」という質問にははっきり答を出すことは難しいでしょう。日本国民には北方の広い隣国に対する本当の意味での興味を持つことを期待します。このためには時間も必要です。そして、日本のマスコミがより客観的にロシアのことを伝えることも希望します。また、日本の学校もこの問題に力を尽くしてほしいです。そうすると、早期で偏見の発生を防ぐことが出来るからです。

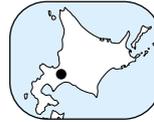
もちろん、私達、来日するロシア人も自分の国を代表して、もっと魅力的なロシア人のイメージを作るために努力しなければなりません。両国民一人一人の個人的な交流が様々な誤解と不信を越えるために一番効果的な手段なのですから。

オフシャンニコフ・ニコライ

1981年ソビエト連邦(当時)首都、モスクワ生まれ。6歳の時に、父の仕事で初めて来日。ソビエト連邦がロシア共和国に変わった1992年に帰国。1997年モスクワ国立大学日本語学科入学。日本史、日本文化を主に専攻。2001年モスクワ大学5年生の時、交換留学のプログラムで、研究生として再来日。現在、東海大学留学生センターで勉強中

# あちこち日本語ご紹介

## 国内編



北海道  
札幌市

### 地域の日本語ボランティアをめざして

日本語ボランティア「たんぼぼ」  
喜多村 喜美江

今、手元に北海道日本語ボランティア教室マップがあります。北海道にある16のボランティアグループの名称、実施場所・日時、最寄りの駅、費用などが日本語の他4カ国語で書かれています。16のグループの内、12組が札幌および隣接している市に集中しています。その中の一つが私の所属する日本語ボランティア「たんぼぼ」です。

#### はじめ

「たんぼぼ」は日本語教師をめざす人達の研修の場を作りたいという考えで、1993年の6月にスタートしました。市に協力を仰ぎ、札幌市女性センターの視聴覚室を週1回借りられることとなり、とりあえず始めることができました。

当初は、クラス形式で初級と中級の90分授業を2クラス開き、授業担当の他にアシスタントが2、3名入り、相互に協力しながら研修をしているという状態でした。広報を市が担当してくださったおかげもあり、また、一般の外国の方を対象にしたボランティア教室があまりなかったからか、18名入る部屋はほぼ満席になりました。10回で終了というコースを年に3回開いていましたので、アシス

タントも増え、徐々に力をつけ、3年後には13人全員が授業を担当できるようになりました。

#### テキストを作ろう！

その一方で、第1回目から、「学校の授業」と「町の教室の授業」は違うという現実をつきつけられ、なん

とかしたいなあという思いでいっぱいでした。ボランティア教室に必要なことは、学習者がその地域で生活をしていく上で必要な語彙を習得させることや、クラスでの会話を充実させていくことです。また短い時間（「たんぼぼ」は90分×10回）で個人の四技能のでこぼこや、参加者同士のレベル差にも対応しなければなりません。

そういう現実と直面した結果、自分達のクラスに合ったオリジナルテキストを作ろう！という気持ちがスタッフの中に生まれてきました。「たんぼぼ」が作ったテキストは会話を主眼にして、イラストをふんだんに入れています。

このように、目の前のことを解決しながら進めていくうちに、地図や交通機関、方言なども含めた札幌に根ざした資料集も作り、6年目には外国人参加者が全部で50カ国555人になっていました。

#### グループの独り立ち

クラスの内容は会話中心ですが、日常生活での日本事情をやったり、漢字を勉強したり、ドラマのビデオを見ながら、終助詞を学習する



授業にはゲームも取り入れて、楽しみながら進めます

といった少し上のクラスも作り、年に2、3回は料理で参加者同士の交流や自己表現の場を設けていました。が、冬場に参加者が減ることや市の財政見直しで3年前から「たんぼぼ」は独り立ちすることになりました。教室、教材の保管場所の確保、広報活動など今まで市におんぶしていたことをすべて自分たちでやり、諸費用の捻出のために会費を集めることにしました。

#### もうすぐ10周年

新人研修という当初の目的は、毎週やってくる外国人参加者と向き合っている間に変化し、今では「たんぼぼ」は教師と学習者が相互に学び合う場になっているのではないかと考えています。しかし、参加者のゼロスターターがほとんどいなくなり、読解などの技能を高めたい人が増え、それにどう対応していくかが来年の10周年に向けての課題となりそうです。

今後、課題解決のためにも自分たちの力をつけること、また、本当に日本語ボランティアが必要な方達に、より広く情報を伝えること等、まだまだやるべきことはたくさんありますが、皆で共に考えながら、活動を進めて行きたいと思っています。



学習者と教師の交流は年2回行います。調理室でお国の料理を作って、一緒に食べながら親睦を図りました

# あちこち 日本語 ご紹介

## 海外編



タイ王国  
コンケン

日本語と農業でつながるコンケンと群馬県の高校生

コンケン農業技術校  
オラピン・チャレスリー

コンケン農業技術校は、タイ東北部（バンコクから500km）の農村地帯にある短期大学部を併設する農業高校です。コンケンの産業の中心は、農業や養蚕ですが、一年を通じて乾季が長く、灌漑設備も十分でないのと土壌も塩分を含んだ農業に適さない土地が多いことから、昔からタイの中でもあまり豊かな地方ではありません。

日本でも同じかもしれませんが、タイでは10年前までの経済がよかった時代には、若者の多くがバンコクに働きに行き、ここコンケンに残って農業を行おうとする若者は減ってしまいました。ところが、バブル経済が破綻したことに伴って、バンコクで職を失った人々の多くが、また、田舎に戻って来て何とか農業によって生計を立てようとしているのが現状で、国も政策としてこれを支援しようとしています。

### 始まりは農業留学

本校で、日本語の授業を採択するに至ったのは、そんな折に、群馬県からの働



コンケン大学の講師によるカードを使った「ひらがな」の授業。50名の生徒が熱心に参加している

きかけによって、毎年3名の本校生徒を群馬県に送るようになったことに端を発します。

2001年度で高校生の派遣は4回目を数え、既に12名の生徒を群馬県へ送り出しましたが、最初の頃の留学生は、日本に行ってから日本語を話したり、読んだりすることができず大変苦労したようです。

そこで、約2年前から、自由選択科目として日本語の授業を取り入れ、毎週2時間の授業を行うようになりました。現在生徒は約50名程にまでなりました。

本校では、最初、日本語を教えるとき、タイ語と日本語の間に英語(アルファベット)を介して教えようとしたのですが、生徒がアルファベットが苦手であったために、途中から、タイ語で日本語(ひらがな)を教えることにしました。しかし、最初のうちは、教材が英語を介した物しかなかったために、日本語教師が、アルファベットをタイ語に直して授業に取り組まなければならない、教師は大変忍耐強く教材作りを行わなければなりませんでした。

また、日本語授業のための予算が少ないことから、日本語教師の資格者を外部から十分に招くことができず、私たち専門外の教師も、自ら日本語を学びながら生徒に教えなければならないのが現状です。



2001年8月、群馬県の農業高校生が訪問。コンケン農業技術校の宿泊棟にて生徒同士で日本語、タイ語を教えあう

### 言葉が持つ力

しかし、昨年からは群馬県の農業高校生が、毎年、本校に派遣され、生徒同士の交流がタイ側でも行われるようになったため、日本語学習の気持ちは、本校ではさらに高まって来ています。今では、帰国留学生を中心に課外活動で日本語クラブを作って、生徒同士による日本語学習も始まっていますし、私たち教師もメールで日本語を日本語教師から教わったりしています。

このような状況の中で、今では、群馬県へ旅立つ留学生も、「ひらがな」や簡単な会話を既に身につけているため、不安な面持ちから自信に溢れた顔へと変わって来ています。

私もこの留学生の仕事に携わる中で、言葉というものが持つ力の不思議さや可能性に改めて気付かされています。群馬県とコンケン、日本とタイの信頼関係が日本語、タイ語のそれぞれを学ぶ人々によって益々深まっていくことを祈念いたします。

# 教材紹介

『いっしょに にほんご』

『完全マスター語彙 日本語能力試験 1・2級レベル』

『完全マスター漢字 日本語能力試験 2級レベル』



## 『いっしょに にほんご』

東京外国語大学留学生日本語教育センター教授 横田淳子

最近、多くの小学校の教育現場で、ある日突然、日本語が話せない外国人児童を受け入れることになり、通常の国語教育とは違う日本語教育をしなければならぬ事態が起きています。また、日本社会への適応もうまくいき、日本語によるコミュニケーションにも大きな問題はないように見える外国人児童であっても、日本語を使つての教科の学習が難しいという問題も出てきています。

『いっしょに にほんご』は、このような問題に対処できるように、

- (1) 教師が日本語指導の研修を受けていなくても日本語指導ができる。
- (2) 学校への適応のための日本語と同時に、学習のための日本語も視野に入れる。
- (3) 児童が楽しみながら学習していける。
- (4) 短期間で習得できる。

の4点を目標に作成した日本語指導教材です。

全体の形は教科書形式ではなく、パネル形式にしました。パネルの表にはストーリー性のある絵が漫画と同じような吹き出し付きで描かれています。絵は、ブラジルから来日した10歳の女の子マリアさんが日本の小学校4年に編入し、学校生活に慣れ、日本語を学んでいく様子が生き生きと描かれ、子どもたちをひきつける力を持っています。また、パネルの裏には、教師のために、表の絵の場面、せりふ、指導上の留意点が書かれています。

教材全体は22課プラス1課から構成され、各課には10枚前後の本文パネルのほかに2～5枚のタスクパネルがついています。タスクパネルの裏にはタスクの使い方も書いてありますので、容易に単語や文型の練習をすることができます。

本教材には次のような特徴があります。

- (1) どんな教師でもパネルを持って教室に行けば、日本語指導ができる。
- (2) パネルを使うことで、学習者の関心をひきつけながら、文型を繰り返し提示できる。
- (3) 学習者には文型を意識させず、応用度が高い日本語を短期間で習得させることができ、教科学習につなげられる。
- (4) 学習者が学校や家庭で経験することを題材にしているので、生活適応しやすいと同時に、習得した日本語を実際の場面で使える。
- (5) 場面によって日本語のスタイルが違うことを絵で提示することによって、生活日本語と学習日本語の違いがわかる。
- (6) 文を読んだり書いたりすることにより、文型の定着が促進され、学習日本語につながられる。

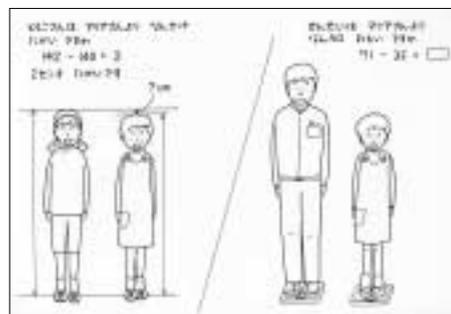
小学校やボランティア団体の日本語教育の現場でこの教材が活用され、日本語が必要な子どもたちの教育に少しでもお役に立つことができれば、大変うれしく思います。



『いっしょに にほんご』表紙：主な登場人物



20-6：本文会話



20-タスク：比較表現練習のタスク

### いっしょに にほんご

A4サイズ絵カード271枚  
32,000円

教師用解説付

横田淳子、小林幸江 著

(東京外国語大学留学生日本語教育センター)

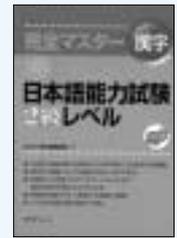
## 完全マスター語彙 日本語能力試験 1・2 級レベル

B 5 判 100頁 1,100円  
大矢根祐子、寺田和子、東郷久子、増井世紀子 著  
東京国際大学付属日本語学校

8月発売予定

## 完全マスター漢字 日本語能力試験 2 級レベル

B 5 判 140頁 CD付 1,400円  
かたくり日本語教師会 著



### 『完全マスター語彙 日本語能力試験 1・2 級レベル』

東京国際大学付属日本語学校 増井世紀子

本書は、日本での進学を目的とする学習者を対象とした日本語学校の授業の中から生まれたものですが、進学や日本語能力試験の準備のためだけでなく、広く中・上級の学習者の語彙拡大に役立つことを目指して作りました。日本語の膨大な語彙を、ただひたすら問題を解いて覚えるのではなく、意味の分類を通して語彙を整理し、使い方を学んでいこうとするものです。

本書では、まず、語彙を品詞別に意味のグループで分類することによって、システムティックに理解し、覚えることを目指しています。また、練習問題も、それぞれの意味のグループ毎にまとめました。似たような意味の語彙がある場合、その微妙

な違いを説明するよりは、典型的な使用例を示すことにより、その語彙の特質を浮かび上がらせるように努めました。特に間違えやすいと思われるものには、欄外にヒントをつけ、自習できるようにしてあります。

語彙は様々な分野で使用頻度が高いと思われるものを取り上げました。問題として取り上げられなかった語彙、特に、最近の新しい話題の中で使用されることが多いものなどは、コラムの形で取り上げました。

本書が教室で、また自習用として中・上級の学習者の語彙獲得に役立つことを期待しています。

### 『完全マスター漢字 日本語能力試験 2 級レベル』

かたくり日本語教師会 石井怜子

本書は56日間で2級漢字1024字の使い方と読み方をマスターする問題集で、「問題・解答と解説・漢字リスト・CD」からなっています。作成の際には、過去の日本語能力試験の問題を徹底分析し、漢字の運用力養成を目標に、三つのレベルに分けて段階的に学習できるようにしました。ステップ1は最も基本的な漢字である300字をランダムに提出、ステップ2以降は毎課20~30字前後を提出しました。

#### 二大特長

##### 1. CD付

CDを聞き、漢字を使って文章を書く問題が毎課あります。耳から聞いたことを文章化することによって、漢字と仮名の使い分けや適切な漢字の使い方ができるかどうかを確認することができます。

##### 2. 漢字リスト付

ステップ2以降で予習として使用します。合格に必要な2級漢字の読みと語彙を完全網羅しました。

#### 2 級漢字と 2 級語

2 級漢字の音訓のすべてが 2 級語彙を構成しているわけではないことをご存じでしょうか。例えば「損」という漢字は、「損、損害、損得」は 2 級語ですが、「損失、破損」及び「損

なう」は 1 級語です。そこでこのテキストでは、「損、損害、損得」は扱いますが、訓の「そこなう」と「損失、破損」は（失も破も 2 級漢字ですが）扱っていません。漢字は語彙としての意味の理解が伴ってはじめて定着するからです。逆に、初歩的な漢字の中に、中級修了までに落としがちな重要な 2 級語があります（「だ円」「自ら」「木村家」など）。以上の理由から、このテキストでは、範囲を 2 級語の漢字語に限定し、かつそれらをすべて網羅しました。

#### 間違いの訂正

答えあわせをして間違った部分は、学習者自身に消しゴムを使わずに書き直させると大変効果的です。

本書を使用することにより、無理なく実力アップすることを確信しております。

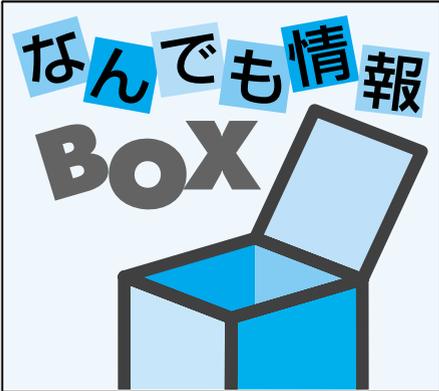
#### 『完全マスター漢字 日本語能力試験 2 級レベル』 凡人社麹町店 店頭イベントのお知らせ

『完全マスター漢字 日本語能力試験 2 級レベル』の著者による教材紹介を凡人社麹町店サロンスペースで行います。予約不要、参加費無料のイベントです。

日時：8月24日（土）14:00～15:30

講師：石井怜子先生（かたくり日本語教師会）

会場 / 問合せ：凡人社麹町店 tel:03-3239-8673



**セミナー SEMINARS**



**初心者のための『みんなの日本語初級』の教え方**  
 お問合せ頂いております大阪会場は9月以降で検討中です。東京会場は、最新の講座案内をお知らせします。  
 内容：『みんなの日本語初級』  
 『みんなの日本語初級』  
 \* は各計10時間予定  
 会場：東京、大阪 費用： 各15,000円

**『新日本語の中級』を中心とした中級の教え方**  
 日時：9月21日(土) 10:30~12:30、13:30~15:30  
 会場：アジア文化会館(東京都文京区本駒込2-12-13)  
 講師：平井悦子(スリーエーネットワーク日本語講師)  
 定員：40名 費用：6,000円

**『日本語中級J301』勉強会**  
 別冊「アイデアの宝船」で『日本語中級J301』を使ったクラス活動をご報告いただいた先生方と著者をお招きし、勉強会を予定しています。  
 日時：2002年8月31日(土) 13:30~16:30  
 会場：アジア文化会館(東京都文京区本駒込2-12-13)  
 定員：40名 費用：1,000円

以上、下記宛講座案内をご請求下さい。  
 問合せ/申込み先：スリーエーネットワーク講座係  
 101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル  
 TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197  
 E-mail:ja-net@3anet.co.jp

**「年少者への日本語教育を考える」セミナー**  
 日時：9月14日(土) 13:30~17:00  
 会場：ひょうご国際プラザ3F 交流ホール  
 定員：100名(定員になり次第締め切ります)  
 内容：日本語教育を必要とする年少者への指導を考える基調講演講師：関口明子  
 事例報告：村山勇、池上智恵子  
 費用：500円  
 申込み：住所、氏名、電話番号を明記の上、郵送、FAX、E-mailでお申込み下さい。  
 問合せ/申込み先：長嶋昭親  
 655-0884 神戸市垂水区城が山5-6-1  
 TEL：090-3161-6046 FAX：078-752-8415  
 E-mail：buadu406@hi-net.zaq.ne.jp  
 主催：兵庫日本語ボランティアネットワーク

**ほん BOOKS**

本誌に表示した価格は税別です。

<b>みんなの日本語初級</b>		
翻訳・文法解説ロシア語版	発売中	2,000円
翻訳・文法解説ドイツ語版	9月発売予定	2,000円
<b>みんなの日本語初級</b>		
携帯用絵教材	発売中	6,500円
B4サイズ絵教材	発売中	38,000円
<b>新日本語の中級 文法解説書 英語版</b>	発売中	1,600円
完全マスター漢字 日本語能力試験2級レベル	発売中	1,400円
完全マスター語彙 日本語能力試験1・2級レベル	8月発売予定	1,100円
日本語教育をめざす人のための <b>基礎から学ぶ音声学</b>	発売中	1,900円
日本語でボランティア 外国語として日本語を教えるって?	発売中	950円
<b>いっしょに にほんご</b>	発売中	32,000円

**絵でわかる かんたんかんじ160**  
 武蔵野市帰国・外国人教育相談室  
 教材開発グループ編著  
 9月発売予定  
 120頁  
 予価：1,500円  
 『絵でわかるかんたんかんじ80』に続き、小学校2年生の漢字160字を網羅した外国人の子ども向けの教材です。意味の理解・書き練習・物語などの読み練習を全てイラストですることができます。

**新日本語の中級 教師用指導書**  
 海外技術者研修協会 編  
 9月発売予定  
 224頁  
 定価：2,000円  
 『新日本語の中級』で教える教師必携の参考書。実際の授業で教える順序、単語や会話の指導に有効に使える資料、教師が知っておくべき学習項目の基礎知識など、指導に当たった際の留意点をまとめました。

**お知らせ INFORMATION**



**『みんなの日本語初級』準拠活動教案 募集**  
 『みんなの日本語初級』は刊行されてから、4年が経過し、お蔭をもちまして多くの方に、ご使用いただいております。日本語学校やボランティア教室等で『みんなの日本語初級』を使っているクラス活動を工夫している話をよく耳にします。Ja-Net編集部では、今回『みんなの日本語初級』の「活動教案」を募集します。優秀賞、佳作は、2003年4月発行のJa-net誌上で掲載し、また図書券を贈呈(優秀賞5000円相当、佳作3000円相当)いたします。応募ご希望の方は、要項を送付しますので、Ja-Net編集部までお問合せください。  
 問合せ先：スリーエーネットワークJa-Net編集部  
 101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル  
 TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197  
 E-mail:ja-net@3anet.co.jp

**スリーエーネットワーク研修・教育事業のご案内**  
 スリーエーネットワークは外国人に対する日本語研修をはじめ様々な研修・教育プログラムも開発しています。ご関心のある方は、お気軽にお問合せください。研修部案内書を送付いたします。  
 異文化理解・交流に関するプログラム開発と運営のお手伝い(学校教育・地域社会等)  
 講師手配、教材の作成、カリキュラムの策定の相談受け付け  
 インドネシアの日本語教育機関(国立大学・財団等)での実習・視察  
 問合せ：スリーエーネットワーク研修部  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64田中ビル  
 TEL：03-3292-6193 FAX：03-3219-2890  
 E-mail：kenshu@3anet.co.jp  
<http://www.3anet.co.jp/kenshu/index.html>

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させて頂いた方には粗品を進呈いたします。また本誌をご希望の方は、お名前、ご住所、所属をFAX等で編集部までお知らせください。無料でお届けします(国内のみとさせていただきます)。『Ja-Net』第23号は10月25日発行予定です。

**Ja-Net 季刊ジャネット No.22**

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2002年7月25日発行  
 発行人 藤崎政子  
 発行所 (株)スリーエーネットワーク  
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル  
 Ja-Net編集部 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197  
 営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195  
<http://www.3anet.co.jp> E-mail: ja-net@3anet.co.jp  
 日本印刷(株)  
 © 2002 by 3A Corporation Printed in Japan(禁無断転載)